巻頭言

ＪＡアオレンＳＤＧｓ取り組み状況について

ＪＡアオレンでは、2021年度をベースに『ＳＤＧｓ2030年目標』を掲げ、情勢の変化を踏まえながら目標達成に向け、先進的な取り組みを関係機関等と連携しＪＡグループ青森として貢献できるよう事業を展開しております。

Ⅰ．環境負荷低減

１．冷蔵庫のハイブリッド式冷却設備の導入
ＣＯ²とアンモニアのハイブリッド式冷却設備により、電力量とＣＯ²排出量を大幅に削減。

２．高分子逆浸透膜濾過装置の導入
高分子逆浸透膜（ＲＯフィルター）濾過装置により純度の高い水を精製することで、工場稼働に必要なボイラーの熱効率を高め燃料費を削減。

３．工場廃熱の再利用
工場から出るこれまで廃水されていた温水の廃熱を再利用することで熱量生産に係るコストを削減。

Ⅱ．健康増進・職場環境

野球やゴルフ、釣りなどのクラブ活動を通じて、従業員の健康維持や関係組織等との交流通じ業務の円滑化を促進。

Ⅲ．循環型農業への貢献

グレンカル・テクノロジー社が開発したプラズマイオンを用いた乾燥設備により、りんご搾りかす等を低温・低コストで乾燥することで炭化・酸化させずに乾燥させる新技術を導入。（2025年２機目導入）

１．『りんご搾りかす』と『コーヒー豆かす』乾燥品をブレンドして【あおもり倉石牛】の飼料に活用。

２．県内コンビニで廃棄処分されている『コーヒー豆かす』を活用し、資源の有効活用と地産地消を目指す県内循環型サイクルを実践。

３．りんご搾りかす乾燥品を活用した植物性由来原料のアップルレザーや様々な試作・試験を実施し農業用資材等の製品化を目指す。

「ANA GreenJet」の
ヘッドレストカバー

王林さんがプロデュースする
「アップルレザーバック」
「アップルレザーキャップ」

【試作品】
りんご用 20kgコンテナ

※　取り組みの詳細については、令和６年度絆５月号Ｐ18にも記載しております。

ＪＡアオレン

県内JAのニュースを紹介します

フラッシュ

ＪＡつがるにしきた

夏秋ネギ収穫盛ん（９／４）

ＪＡつがるにしきた管内でネギの収穫が盛んに行われている。収穫のピークは９月から10月で、11月下旬頃まで続く。本年度の取扱数量は789㌧、販売高は２億9395万円を見込む。

本年産は、春の乾燥で生育が心配されたが、７月以降適度に降雨があったことで、軟白部分の太みが増し、例年以上に良く育っている。

ＪＡ青森

全量一等に　2024年産米初検査（９／11）

ＪＡ青森は、青森市で2024年産米初検査を行った。常勤役員や関係者など約30人立ち合いのもと、「青天の霹靂」のフレコン４袋（１袋1080㌔）を検査した。

検査結果は、整粒の割合が81％、水分が14・４％、被害粒が２・０％となり、全量一等米に格付けされた。ＪＡでは９月中旬から入庫が本格化しており、ＪＡ管内では全15カ所で検査が行われる。

ＪＡつがる弘前

適期収穫を　巡視会および目揃会（９／13）

ＪＡつがる弘前ぶどう部会は、巡視会および目揃会を開いた。

巡視会では、管内５カ所のほ場で生育状況や着色具合、病害虫の発生状況などを確認し、糖度の計測を行った。

目揃会では弘前市の前坂ＣＡ冷蔵庫で、参加者がサンプルとして等級分けしたスチューベンとシャインマスカットの着色度合いや粒の大きさ、重さなどを確認した。

ＪＡごしょつがる

県内納品第１号　共同購入コンバイン（９／９）

ＪＡごしょつがる購買課とＪＡ全農あおもりは、県内第１号となる共同購入コンバインを納品した。これまでに受注した４台のうちの１台。

ＪＡグループは、生産コスト低減への取り組みの一環として、共同購入による農業機械の開発と供給に取り組んできた。第１・２弾のトラクターに続き、第３弾は４条刈りのコンバイン。

ＪＡ相馬村

小学生リンゴ授業「葉取り」編（９／19）

弘前市立相馬小学校３年生16人が相馬村の園地でリンゴの葉取り作業を行った。

今回は、７月に自分たちで袋掛けしたリンゴの実についている葉を取る作業。少しでも持ち上げるとすぐに落ちそうになるリンゴを前に、緊張の面持ちで１枚ずつ慎重に葉を取り除いていた。

ＪＡ津軽みらい

新規作付け者向けの講習会開く（９／11）

ＪＡ津軽みらい園芸生産出荷協議会ミニトマト部会は、第２回新規作付け者向けの現地講習会を平川市で開いた。新規作付け者の栽培技術の向上と安定生産を図ることが目的。

７月に開いた第１回の講習会が好評だったことから第２回を実施。この日は生産者９人が参加し、９月以降の栽培管理について学んだ。

ＪＡゆうき青森

こかぶ大きくなあれ！　青年部が播種指導（９／６）

ＪＡゆうき青森野辺地地区青年部は、野辺地町立野辺地小学校と若葉小学校を訪れ、３年生に同地区特産品「野辺地葉つきこかぶ」の播種指導を行った。

児童らは、まっすぐ植えられるように、播種機を使って慎重に作業。作業後は、播種機の仕組みについて青年部員から説明を受け、種子や薬剤が出てくる様子を観察していた。

ＪＡおいらせ

自慢のニンニク勢ぞろい　ニンニク大玉共励会（８／29）

ＪＡおいらせやさい推進委員会にんにく部会は、ニンニク大玉共励会を六戸支店で行った。生産者の栽培技術の向上と部会全体のレベルを高めることが目的。

出品はＡ２Ｌ以上で、10玉の総重量や色沢、形状などを総合的に競う「総合の部」、１玉の重量や品質を競う「大玉の部」、白色の美しさを競う「ミスホワイトの部」の３部門で計34点が出品された。

ＪＡ十和田おいらせ

稲種子の刈り取り進む（９／17）

十和田市七郷地区にある水稲種子採種ほ場で、県奨励品種の「まっしぐら」の刈り取りがピークを迎えている。農産物検査法に基づく検査に合格したものは、来春に県内全域の稲作農家へ供給する。

同地区は同市水稲採種組合40戸が計110ヘクタールに作付し、県奨励品種「まっしぐら」403トン、飼料用米の「ゆたかまる」1333トン、「えみゆたか」17トンを採種する。

ＪＡ八戸

農福連携　社会で活躍の場を（９／19）

ＪＡ八戸は八戸市の生産者のほ場で、八戸市の「グッジョブ妙光園」の施設利用者５人に作業を依頼し、ミニトマトのツルの片づけ作業を行った。

ＪＡ八戸では、新たな働き手の確保や農業経営の発展につながる取り組みとして、今後も農福連携のマッチングを進めていく予定。

JA青森中央会 information

秋田・山形の大雨被害に見舞金贈呈

県農協農政対策委員会は９月２日、ＪＡ秋田中央会とＪＡ山形中央会にそれぞれ大雨被害の見舞金を贈呈した。

同委員会の乙部輝雄委員長（ＪＡ青森中央会会長）が同日、山形県上山市内で、ＪＡ秋田中央会の小松忠彦会長、ＪＡ山形中央会の折原敬一会長に目録を手渡した。

乙部委員長は「被害に遭われました皆様の復旧支援のため、見舞金を贈呈させていただきます。一刻も早い復旧を心よりお祈り申しあげます」と目録を手渡した。

これに対し、小松会長、折原会長はともに「頂戴した見舞金は大切に使わせていただき、しっかり復旧に取り組んでいきたい」と述べた。

▲乙部委員長から目録を受け取る小松会長（右）

▲乙部委員長から目録を受け取る折原会長（右）

生活指導員　県内視察研修

県農協生活指導員連絡協議会は９月３日、青森市内で県内視察研修を行った。県内６ＪＡから14人の生活指導員が参加し、北洋硝子㈱、青森刑務所、東奥日報本社を訪問し、知見を深めた。

北洋硝子㈱では津軽びいどろの製造過程を見学。職人たちの技術を目にし、青森県の伝統工芸品がどのように作られているのかを学んだ。

青森刑務所では、作業工場、浴場、刑務所の居室などを見学。受刑者の１日の流れや刑務所の概要、収容状況などについて職員から話を聞き、犯罪の背景や更生プログラムなどについて理解を深めた。

東奥日報本社では、新聞ができるまでの工程や輪転機などを見学し、新聞会社の業務について学んだ。

参加者は「今回の研修で、ものづくりの過程に目を向けることの大切さを学んだ。同協議会でも目標に向けて過程を大切にしながら活動し、更なる活性化へ繋げていきたい」と語った。

▲青森刑務所での集合写真

▲東奥日報社内を見学する生活指導員ら

行事（10／10～11／10）

10月

16日	参協定例会（県農協会館）
16日	国消国産の日イベント「みんなで知ろう！国消国産！ 2024 ！」（県農協会館）
16日	ＪＡ常勤役員・幹部職員研修会（アップルパレス青森）
17日	（男女共同参画型）リーダー育成研修会（県農協会館）
19日	認証初級試験（県農協会館）
21日	臨時総会、臨時理事会（県農協会館）
23日	中堅クラス職員フォロー研修会（県農協会館）
23日	県農協生活指導員連絡協議会第２回研修会（東奥日報新町ビル「New's」）
31日	県女性協第５回定例理事会（県農協会館）

11月

５～７日	認証営農指導員準備研修会（県農協会館）
７日	定例理事会（県農協会館）
９日	認証中級試験（県農協会館）

乃木坂46のメンバーが好きな食材で!

国消国産レシピ

前菜編
メイン編
スイーツ編

乃木坂46のメンバーが好きな「白桃」、「さつまいも」、「ヨーグルト」を使った、パンナコッタのレシピをご紹介します。
桃は果物推しの梅澤さん、田村さんが大好き。ヨーグルトのパンナコッタに、白桃のソースを乗せ、さつまいもチップスを添えました。

桃のパンナコッタ
さつまいもチップス添え

■材料(2人分)

〈パンナコッタ〉
- 牛乳 80ml
- プレーンヨーグルト(無糖) 80g
- 生クリーム 100ml
- 砂糖 大さじ2
- 粉ゼラチン 3g
- 水 大さじ1

〈桃ソース〉
- 桃 1個
- 砂糖 大さじ3
- レモン汁 小さじ1

〈さつまいもチップス〉
- さつまいも(1mmのスライス) 適量
- メープルシロップ 大さじ1
- バター 10g
- 水 小さじ1
- ミントの葉 適量
- サラダ油 大さじ4

梅澤美波

動画では私が調理に挑戦しました!

パンナコッタの作り方

1 耐熱ボウルに水を入れ、ゼラチンを振り入れてふやかす。砂糖を加えて600Wの電子レンジで30秒加熱する。牛乳、プレーンヨーグルト、生クリームの順に加えてその都度混ぜる。カップに流し入れて、固まるまで冷蔵庫で2時間冷やす。

桃ソースの作り方

2 桃は皮をむいて一口大に切り、耐熱ボウルに入れる。砂糖を加え、600Wの電子レンジで3分加熱する。レモン汁を加えて、電子レンジで追加で3分加熱し、粗熱をとって冷蔵庫で冷やす。

さつまいもチップスの作り方

3 さつまいもはスライサーで薄切りにする。水に10分さらして水気を拭き取る。フライパンにサラダ油をひいて強火で熱し、さつまいもを両面こんがりと焼いて一旦取り出す。フライパンにメープルシロップ、バター、水を入れて中火で煮立て、さつまいもを戻し入れて煮絡め、バットに取り出してシロップが固まるまで置いておく。

4 1に2を流し、3をのせる。ミントの葉を飾ったら、完成!

詳しい調理のショート動画はこちらから

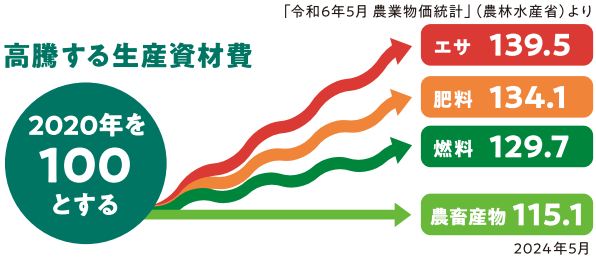
どうして『国消国産』が大切なの?

『国消国産』それは「私たちの『国』で『消』費する食べものは、できるだけこの『国』で生『産』する」という考え方

だから国産食材をたくさん食べて応援しよう!

【私たちが知っておきたいこと】**農畜産物を生み出す資材費が高騰**
肥料、家畜のエサ、燃料などの価格高騰が続く反面、農畜産物の価格はほとんど変わっていない

「令和6年5月 農業物価統計」(農林水産省)より



田村真佑

メンバーが調理を楽しむ動画等を公開中!
ぜひアクセスしてください!

乃木坂46 国消国産

JAグループ
耕そう、大地と地域のみらい。

JAグループ
耕そう、大地と地域のみらい。

食べよう国産、
当てよう
日本全国の美味

実りの秋！国消国産

JA直売所キャンペーン2024

実施期間 10/1(火)～11/30(土)

「国消国産」を知ろう！

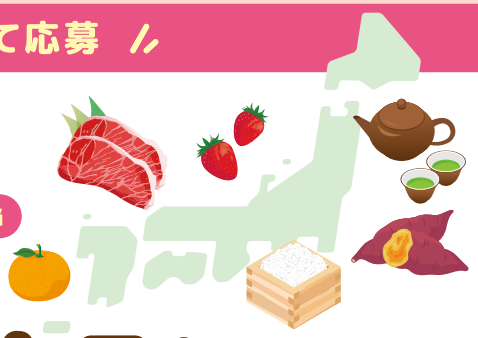
私たちの「国」で「消」費する食べものは、できるだけこの「国」で生「産」するという考えを「国消国産」と言います。現在、日本の食料自給率は4割程度で、先進国の中でも最低水準となっており、私たちの食を取り巻くリスクは年々高まっています。この秋は、JA直売所で秋の食材を楽しみながら、「国消国産」を進めましょう。

JAグループサポーター 林 修

＼ スタンプを集めて応募 ／

選べる！47都道府県の農畜産物・加工品コース

47都道府県から選べる 3,000円相当
とっておきの農畜産物・加工品が



合計 名300名様 14,100名様に当たる！

＼JA直売所の検索も！／
賞品ラインナップは特設サイトへ

JA直売所に2回以上ご来店で応募できます！

参加方法について詳しくは裏面をチェック！

＼ JA直売所でお買い物をしたらこちらも ／

お買い物で当たる！LINEでレシート応募コース

JA直売所で税込1,000円以上お買い物したレシートを撮影して、
「JA直売所キャンペーン公式LINEアカウント」にレシート画像を送ろう！

※画像はイメージです。

国産和牛が 合計 300名様に当たる！

両方に応募すると
選べる！47都道府県の農畜産物・加工品コース
の当選確率アップ！

LINEで簡単応募♪ ▶ JA直売所キャンペーン公式LINEアカウント 検索ID：@jafmcp

期間中JA直売所を2回以上訪れて日本全国の美味を当てよう！

選べる！47都道府県の農畜産物・加工品コース

参加方法

1 JA直売所に行こう！

JA直売所は特設サイトや「JA直売所キャンペーン公式LINEアカウント」のメニューからも検索できます！

※全国各地のJA直売所でスタンプを取得できます。
※一部キャンペーンを実施していないJA直売所もございます。

2 LINEログインで参加登録

＼登録はこちらから／

こちらの初回参加登録用二次元コードを読み込み、「JA直売所キャンペーン公式LINEアカウント」を友だち追加してLINEログインをすると登録できます。

※応募にはLINEアカウントが必要です。
※万が一スタンプを紛失した場合に備え、初回登録後に発行される【参加者No.】は大切に保管ください。

3 店内ポスターからスタンプ取得用の二次元コードを読み込み、スタンプを集めよう！

スタンプの取得はお一人様につき1日1つまで。
別日にJA直売所にご来店いただくことで
同じ店舗でも異なる店舗でも複数のスタンプを取得できます。

4 スタンプが集まると応募ボタンが表示されます 賞品を選んで応募しよう！

スタンプ**2つで1口・3つでもう1口応募**できます！
くり返し集めれば何度でも応募OK!

JAグループ公式SNSもチェックしてね！

Instagram
@yoishoku_ja

X
@JAyoishoku

「実りの秋! 国消国産 JA直売所キャンペーン2024」キャンペーン事務局
お問い合わせ TEL:0120-773-011 MAIL:2024info@ja-kokushokokusan.com

※事務局設置期間：2024年9月17日（火）~2025年3月31日（月） ※返信対応時間は10:00-17：00 ※キャンペーン実施期間（2024年10月1日~2024年11月30日）は、土・日・祝日もお問い合わせを承っております。 ※キャンペーン実施期間外は、土・日・祝日・年末年始のお問い合わせ対応はできかねます。

JAバンク青森 information

県産業技術センターの各研究所のイベントにＪＡバンク青森のＰＲブースを出展

農林中央金庫青森支店は、９月５日に黒石市の青森県産業技術センター農林総合研究所およびりんご研究所の「参観デー」として会場近隣のＪＡと合同で、ＪＡバンク青森の農業資金をＰＲするブースを出展した。

当ブースでは、農業資金に関するアンケートを実施し、ご記入いただいた方全員に農作業用手袋をプレゼントするとともに、条件次第で借入後５年間の金利負担が０円になる農業近代化資金をはじめ、ＪＡが取り扱う各種農業資金をＰＲした。

イベントには、関連団体や企業なども数多く出展し、農業資材や農業機械の展示・実演のほか、試食や各種相談コーナーなども設けられ、各会場は多くの来場者でにぎわった。当ブースには２会場合わせて600人を超える来場者が訪れた。来場者からは近年の農業情勢に係る質問や相談が多く寄せられ、ＪＡ職員は一つ一つ丁寧に受け答えを行っていた。

▲アンケートを記入する来場者

ローン担当者会議の実施

農林中央金庫青森支店は、９月17日にローン担当者会議を実施した。８ＪＡ16名が参加し、意見交換を行った。昨年度までは「営業戦略会議」として貸出推進全般にかかる情報交換を実施していたが、今年度よりローン推進活動のスキルアップや事務に関する留意点などローンに関する知識を深めることを目的として当会議を実施。

主な会議内容としては、青森県農業信用基金協会から融資要項改正に伴う変更点の確認や不正融資に係る注意喚起がなされた。

また、日銀による政策金利の引上げ実施により、各金融機関の利上げが行われたことによるＪＡへの影響等について確認を行ったほか、ローンにおける県域施策および次期中期戦略における貸出領域の取組み方向について意見交換が行われた。

▲ローン担当者会議の様子

行事（10／10～11／10）

農林中央金庫

10月

17～18日　ライフイベントセールスリーダー養成講座（第３回）（県農協会館）
27日　銀行業務検定試験／コンプライアンスオフィサー認定試験（各会場）
29日　不正不祥事未然防止研修（＊）

11月

６～７日　相続相談対応研修（＊）
７日　青森県ＪＡ信用担当部課長会議（県農協会館）

農協電算センター

10月

21日　臨時株主総会（県農協会館）
臨時取締役会（県農協会館）

11月

７日　定時取締役会（県農協会館）
監査役協議会（県農協会館）

＊はウェブ開催

肥料農薬ＷＥＢ受発注システム操作演習

ＪＡ全農あおもりは、８月22日に肥料農薬ＷＥＢ受発注システム操作演習を実施し、県内９ＪＡ17名が参加した。

ＷＥＢ受発注システムは、ペーパーレス化と事務の効率化が図られ、インターネット環境があればシステムの利用が可能となる。

全国では、20道県84ＪＡがすでに導入しており、県内では２ＪＡが導入している。

ＪＡ全農あおもり肥料農薬推進課の須藤雅樹課長は、「ＡＴＬＡＳ購買システムとの連動が可能で、受入伝票が自動化される。そのため、膨大な事務作業の削減が期待できる。業務効率化に向け導入を検討してほしい」と呼びかけた。

参加者からは、システムの操作方法やマスターの整備など事前準備に時間がかかるものの、発注ミスの防止や履歴からの発注による時間短縮のメリットが大きいという意見があがった。

全農あおもりでは、導入するＪＡの支援を行いながら事務の効率化を図っていく。

▲ＷＥＢ受発注操作演習の様子

やさいの日ＪＡフェア開催

ＪＡ全農あおもりは８月30、31日の２日間、県内のスーパーマーケット「カブセンター」「ベニーマート」など計11店舗で、「『やさいの日』ＪＡフェア」を開いた。

これは８月31日の『やさいの日』に合わせ、地産地消を呼びかけるために毎年開いているもの。

店頭ではのぼりやポスターを掲示したほか、県産品を使用したレシピのリーフレット等を配布した。また、店舗内ではハウス食品㈱とのコラボしたオリジナルカレー「青森のうまいもの　夏野菜の彩りカレー」の試食を実施し、県産やさいの消費を呼びかけた。

カブセンター大野店、青果チーフの阿部凌也さんは「お客様に青森県産の野菜の認知度を高めてもらい、より多くの県産野菜を消費していただきたい」と話した。

▲県産野菜の店舗販売の様子（青森市にて）

米穀担当部課長担当者会議

ＪＡ全農あおもりは、８月26日、青森市の県農協会館で「ＪＡ米穀担当部課長および担当者合同会議」を開き、令和６年産米の集荷対策を協議した。その中で、集荷目標数量を1,993千俵（約12万㌧）とした。

高温・渇水等による品質低下を起因とした精米歩留まりの減少や、パン・麺等の値上がり、インバウンドによるコメ需要の増加等により、令和６年６月末の民間在庫量は、過去最少の156万トン、令和７年６月末の推定民間在庫量は152万トンと示された。

会議では、集荷推進具体策として、事前契約を主体とした取り組みによる主食用米の安定生産の推進や、マスメディアを活用した啓発活動の実施等に取り組み確実な集荷を目指す。

全農あおもりの長内敏也米穀部長は「本年度は、田植え以降生育は順調。販売面では、６月末の民間在庫発表、南海トラフ地震への警戒感等からまとめ買いが進み品薄感が強まっている。農家経営の安定を図るとともに、昨年までの取り組みを強化しつつ、新たな取り組みも構築しながら集荷拡大に努める」と述べた。

▲開会のあいさつをする長内部長

にんにく共進会審査会

ＪＡ全農あおもりは９月４日、六戸町の青森県産業技術センター野菜研究所で令和６年度青森県にんにく共進会の審査を行った。

最優秀賞には立崎洋史さん（ＪＡ十和田おいらせ）、優秀賞には木野幸助さん（ＪＡおいらせ）がそれぞれ選ばれた。立崎さんには農林水産大臣賞、木野さんには県知事賞が授与される。

共進会は、日本一のにんにく産地の維持・拡大に向けて、栽培技術のレベルアップと高品質安定生産の推進を目的として毎年開催しているもの。

今年度は県内７ＪＡから107点のにんにくが出品され、審査員らがサイズや形状、乾燥や表皮の状態などの項目を基準に審査を行った。

表彰式は2025年１月17日にＪＡ十和田おいらせ本店にて開催予定。

優良賞の入賞者は次の通り（かっこ内はＪＡ名・順不同・敬称略）。

◇優良賞▽工藤友和（津軽みらい）▽山端正男（十和田おいらせ）▽鶴ケ崎嘉樹（ゆうき青森）▽久田稔（おいらせ）▽宮古雪子（同）

▲にんにくの審査を行う審査員ら（六戸町で）

第18回県乳用牛共進会

ＪＡ全農あおもりは９月７日、乳用牛の品質向上を図るため、七戸町の県家畜市場で令和６年度青森県乳用牛共進会を開いた。

35頭のホルスタイン種が出品され、育成牛、経産牛・未経産牛を月齢ごとに８部門に分けて体格や骨格・乳房の形状などを競った。

審査によって、各類のチャンピオン牛の中から、グランドチャンピオンが選出された。未経産の部では第２類より馬場新音さん（ＪＡおいらせ）の出品牛がグランドチャンピオンに選ばれ、経産の部からは第８類より同じく馬場新音さん（ＪＡおいらせ）の出品牛がグランドチャンピオンと名誉賞に選ばれ、青森県乳用牛共進会の成田具洋副会長より褒賞を授与された。また、団体優勝にはＪＡゆうき青森が選ばれた。

（地独）青森県産業技術センター畜産研究所の佐藤義人審査委員長は「全体を通して、レベルの高い素晴らしい出品牛が多かった。今後は、共進会の意義を一層周知してもらい、改良の同士を増やし、出品牛の一層の確保に努めてほしい」と話した。

最高位賞以外の各類チャンピオン出品者は次の通り（かっこ内はＪＡ名）

▽第１類＝小松卓（ゆうき青森）▽第３類＝伊藤彰英（ゆうき青森）▽第４類＝阿部亨（ゆうき青森）▽第５類＝本間巧斗（ゆうき青森）▽第６類＝梅木修司（ゆうき青森）▽第７類＝（株）サウザンドリーフ（おいらせ）

▲グランドチャンピオン、名誉賞を受賞した馬場さん㊧と成田副会長（七戸町にて）

ごっくんキャンペーン第２弾スタート

ＪＡ全農あおもりと青森県牛乳普及協会は10月31日まで、抽選で素敵な賞品が当たる「牛乳ごっくんキャンペーン第２弾」を実施中。

青森県産牛乳の1000㎖パックについている一括表示欄を切り取り、封書で応募すると、抽選で合計260人に賞品が当たる。封筒１通につき１口とし、何通でも応募可能。賞品により応募に必要な一括表示欄の枚数が異なる。

賞品はT-falの「圧力鍋 クリプソミニットデュオルージュ 4.2㍑」や「あおもり和牛切り落とし」、「飲むヨーグルトセット」など。

問い合わせは、県牛乳普及協会「牛乳ごっくんキャンペーン係」、電話017（729）8631まで。

行事（10／10～11／10）

10月

10～12日　青天の霹靂デビュー10周年記念イベント（ユニバース　ラ・セラ東バイパス店）

11月

７日　運営委員会（県農協会館）

JA共済連青森 information

ＪＡ共済ヘルスアップ講座の開催

ＪＡ共済連青森は８月21日、弘前市のアートホテル弘前シティで「ＪＡ共済ヘルスアップ講座」を開催した。組合員とその家族および地域住民を対象に、総勢約200人が参加した。

講座では、ＪＡ共済がＪＡ女性組織の健康づくりのために開発した「ＪＡ共済レインボー体操」、弘前大学特別顧問・名誉教授の中路重之氏による「短命県返上から学ぶ健康」と題した講演とヘルスチェック、社会福祉法人農協共済中伊豆リハビリテーションセンター副センター長・理学療法士の紅野利幸氏による「認知症の理解と予防体操～認知症から逃げ切るために～」と題した講演と実技が行われた。

昼食には青森県産食材をふんだんに使用した、彩り豊かな「ＪＡ健康寿命100歳弁当」を提供し、講演終了後には落語家の三遊亭好楽師匠の落語により、会場は参加者の笑顔と笑い声にあふれていた。

▲中路　重之氏（弘前大学特別顧問・名誉教授）による講演の様子

▲紅野　利幸氏（社会福祉法人農協共済中伊豆リハビリテーションセンター　副センター長　理学療法士）による講演の様子

また、会場ロビーに「健康づくりブース」を設置し、青森県生活協同組合連合会協力のもと、「立ち上がりボックス・血圧計・体組成計・握力計」を使用した健康測定を行い、参加者は自身の健康状態を確認していた。

県下共済事務インストラクター会議の開催

ＪＡ共済連青森は８月29日、青森県農協会館で「県下共済事務インストラクター会議」を開催した。

会議は、ＪＡにおける個別課題解消に向けた取組み共有、事務インストラクターとしての日々の活動を通じた問題・課題についてグループ討議を行うことで、自身の活動を振り返るとともに、考え方･活動の幅を広げ、自ＪＡでの活動につなげ、ＪＡの事務レベル向上を図ることを目的に開催している。

２組に分かれて行ったグループ討議を通じて、他のインストラクターの考え方などを学ぶことができ、参加者は意欲的に意見交換をしていた。

▲グループ討議をする参加者

健やか協力隊員養成研修の開催

ＪＡ共済連青森は青森県医師会健やか力推進センターと連携して、９月９日に青森県農協会館で健康づくり活動を推進する職員を育成することを目的とした「健やか協力隊員養成研修」を開催した。

会場では、県農協会館に在籍する各連合会の職員と県内ＪＡの職員18名が出席し、健康教養講義と栄養講座による健康に関する知識の向上、健康・体力測定（体組成計等）による自身の健康状態の把握のほか、ワークショップを取入れ、今後実施したい職場内の健康づくり活動を策定し発表した。

研修の最後には、受講者を代表してＪＡつがるにしきたの長谷川一弘さんが、青森県医師会健やか力推進センター今センター長より修了証を受取り、今後の抱負を述べた。

▲ワークショップの様子

▲健康器具の操作説明を受ける参加者

共済担当部課長会議の開催

ＪＡ共済連青森は９月18日に、青森市のホテル青森で「共済担当部課長会議」を開催した。

開会にあたり、葛西副本部長は、会議に出席いただいたこと、また共済担当課長の皆様が推進活動等の第一線で陣頭指揮をとっていただいていることについて感謝の言葉を述べた。続いて、資料を用いて新規契約獲得による事業基盤拡大と、第３四半期の総仕上げに向けて尽力賜りたい旨をお願いした。ＬＡを中心に推進活動に尽力いただき、部課長をはじめＬＡ全体で盛り上げていただいていることに感謝を述べ、挨拶とした。

会議では、令和６年度第２四半期の取組み状況、令和６年度ＪＡ普及推進目標達成に向けた下期の取組み、令和７年１月実施予定の自動車共済の仕組改訂等、共栄火災の取組み状況と今後の取組みについて、協議が行われた。

▲会議の様子

行事（10／10～11／10）

10月

16日	ＪＡ共済ヘルスアップ講座（八戸市／八戸プラザホテルアーバンホール）
17日	建物共済ＪＡ審査員有資格者研修会（オンライン）
24日	ＪＡ自動車契約担当審査員有資格者研修会（オンライン）
30日	書道･交通安全ポスターコンクール表彰式（県農協会館）

11月

７日	運営委員会（県農協会館）
９～10日	書道･交通安全ポスターコンクール展示会（青森市／アスパム）

東北農政局通信

あおもり

連絡先　農林水産省東北農政局
青森県拠点地方参事官室
TEL：017-775-2151

特定家畜伝染病の発生予防対策を徹底しましょう

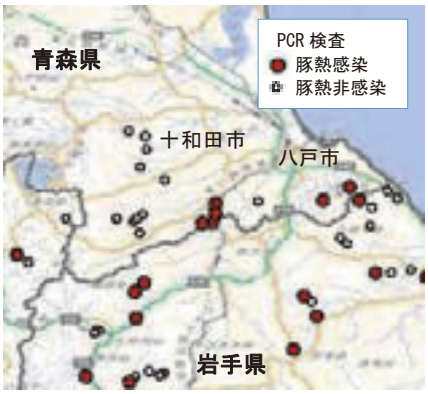
青森県では、本年８月に初めて、野生イノシシの豚熱感染が確認されました。
また、高病原性鳥インフルエンザは、これまで９月から 10 月に野鳥の感染が初発確認されております。家畜飼養者におかれましては、特定家畜伝染病の発生を防ぐため、予防対策を徹底しましょう。

豚熱

野生イノシシに対する豚熱の検査情報

青森県内では、令和６年８月６日、初の野生イノシシの豚熱陽性が確認され、９月 18 日現在、６例確認されています。

検査情報
（令和６年３月 22 日～９月 18 日）



農場における発生予防対策のポイント

①人・物・車両によるウイルスの持込み防止
- 衛生管理区域、豚舎への出入りの際の洗浄・消毒の徹底
- 衛生管理区域専用の衣服、靴の設置と使用の徹底
- 人・物の出入りの記録
- 飼料に肉を含み、又は含む可能性があるときは、攪拌しながら摂氏 90 度以上・60 分間以上の加熱処理を徹底

②野生動物対策
- 防護柵の設置等による野生動物侵入防止対策
- 飼料保管場所等へのねずみ等の野生動物の排せつ物の混入防止
- 豚舎周囲の清掃、整理・整頓
- 死亡家畜の処理までの間、野生動物に荒らされないよう適切に保管

高病原性鳥インフルエンザ

令和５年度シーズンの発生状況

感染については、野鳥が 10 月４日、家きんが 11 月 25 日、それぞれ陽性を初確認しています。

野鳥及び家きんの全国における初発確認日

	令和２年度	令和４年度	令和５年度
野鳥	10月24日	9月25日	10月4日
家きん	11月15日	10月28日	11月25日

農場における発生予防対策のポイント

①農場に入る全ての人・車両・物品は衛生対策
作業員や外部事業者等を含め、衛生管理区域と家きん舎に入る人は衛生対策を徹底。車両も入場前の洗浄・消毒を必ず実施。物品は原則農場専用。やむを得ず持ち込む場合は洗浄・消毒を忘れない。
周囲にはウイルスがあると認識。農場内・家きん舎内に入れない。

②衛生管理区域・家きん舎ごとに専用の長靴を着用
農場に入るとき、家きん舎に入るときは、必ず衛生的な長靴に交換。農場内では専用の衣服を着用。着替え・履き替えの前後で交差しないよう境界を明確に。

③ウイルスを媒介する野生動物の侵入防止対策
家きん舎は定期点検し、防鳥ネットや壁等の破損などはすぐに修繕。目の届きにくい屋根裏や入気口も注意が必要。
農場に近寄らせない。農場内に入れない。ネズミ・ハエ等の定期的な駆除。

詳しくは、
農林水産省
ホームページへ

農業者のみなさまへ
安全確認と予防対策で
農作業事故を防ぎましょう！

「東北農政局通信あおもり」は、東北農政局ホームページ（青森県拠点）に掲載しており、印刷も可能です。

実践　農業者支援

新規就農者支援策の検討にむけたヒアリング調査の結果

１．はじめに

新規就農者への効果的な支援策の検討を行うために、ＪＡにご協力をいただき新規就農者へのヒアリング調査を実施しました。その中で、就農前後での課題を取りまとめましたので一部を紹介します。

２．調査概要

（１）調査期間：５月下旬～７月中旬

（２）調査対象者：就農から５年以内の新規就農者（新規参入者、親元就農者、雇用就農者）

３．調査結果の概要

（１）調査件数

①新規参入者12名　②親元就農者８名　③雇用就農者３名　計23名

（年齢構成：20代__５名　30代__10名　40代__８名）

（２）就農形態別の主な課題・要望

①新規参入者

就農前	・相談窓口がわからない ・補助金に関する情報が欲しい ・住居に関する情報が欲しい ・品目毎に目安となる収入や初期経費が知りたい ・農地確保に関する情報が欲しい（農地の購入・借入）
就農後	・労働力確保が難しい ・長期的な伴走支援をして欲しい ・選果基準をわかりやすくして欲しい ・栽培技術習得が難しい ・相談できる営農指導員を増やして欲しい ・農業機械のリースをＪＡでして欲しい ・経営主だと出産前後休業などの支援（収入）が無い ・新規作物の導入に向けた支援（指導）が欲しい ・新規就農者を集めた研修会・交流会等を開催して欲しい

②親元就農者

就農前	・農業経営に関する情報が欲しい（研修会等の開催） ・品目毎の経営指標（収支概要）が知りたい ・新規作物の導入にかかる初期費用の情報が欲しい
就農後	・労働力確保が難しい ・親子間で経営方針が共有できていない ・農業経営に関して何処に相談していいかわからない ・子育てと農業の両立が難しい ・相談できる営農指導員を増やして欲しい ・同年代の経営者との交流が少ない

③雇用就農者

―	・研修先以外の農業経営・技術を学ぶ機会が欲しい ・ＪＡの栽培講習会に部会員以外でも参加できるようにして欲しい ・農地確保に関する情報が欲しい（農地の購入・借入） ・農業経営に関して何処に相談していいかわからない

４．まとめ

新規就農者からは経営面や生活面、営農指導員の育成といった幅広い課題・要望がありました。すべての課題を解決することは困難です。ＪＡで取組む課題と関係機関と連携して取組む課題に区分し、各組織の強みを活かした新規就農者の確保・支援策を検討して参ります。

（中央会　農業対策部）

組織農政通信

青森県農協青年部協議会における令和６年度上半期の主な活動

今回は、青森県農協青年部協議会における令和６年度上半期の主な活動について紹介する。

１．令和６年度県内ＪＡ青年部合同研修会

青森県農協青年部協議会は、８月21日に県内農業生産団体の先進的な取組事例を学ぶことを目的に「令和６年度県内ＪＡ青年部合同研修会」を開いた。今回はおいらせ町の観光農園アグリの里おいらせと十和田市の十和田アグリ（株）を視察した。

おいらせ町の観光農園アグリの里おいらせは平成27年度、地産地消優良活動表彰：農林水産大臣賞（交流促進部門）を受賞。温泉熱などを利用した観光農園の運営や同施設で生産された農作物の加工・販売の状況を視察した。また、障がい者雇用の他、農業・観光・福祉の連携についての説明を受けた。この農園は温泉熱などを利用した熱帯果樹園を有しており、青森県ではなかなか見る機会のない栽培方法であるため貴重な機会となった。

十和田市の十和田アグリ（株）では、米、大豆、小麦の生産の他、家畜用稲わらや乾牧草などを生産している状況を視察した。また、自前の米作りから出る稲わらなどを飼料として収集し、グループ全体で農産資源をフル活用している内容や農作業の効率化、機械化を図ることで「耕作放棄地の増加」や「後継者不足」といった地域の課題解決にも取り組んでいる事例について説明を受けた。

このような視察研修は、作物が異なる部員間での意見交換や情報共有の貴重な場となることから今後も継続して開催していく。

▲視察研修の様子

２．青森県農協青年部による将来を見据えた政策提言プロジェクト

青森県農協青年部協議会では、若手農業者が農業現場での課題を洗い出して情報を共有し、その解決策や次世代の担い手確保のために意見を出し合い、行政に提言するためのプロジェクトをはじめた。酪農学園大学の正木卓准教授にファシリテーターとして参加していただき、営農体制構築チームと人材確保と魅力発信チームに分かれて６回にわたり協議した。

協議の中で地域農業の課題は、所得低迷、後継者不足、労働力不足が意識されているが、特に労働力不足が強く意識されている状態で、地域的条件を反映した通年雇用の難しさもみられる。所得低迷では、経営管理の不十分さも意識されている。また、これらの課題は独立しておらず、相互に関係している（通年雇用のため資金確保による規模拡大＝悪循環）ことがワークショップのなかで出された。

▲政策提言プロジェクトの様子

これらの課題の解決策としては、地域農業の組織化・農地の集積化、さらには経営管理システムの再構築やプラットフォーム（仲介組織・システム等）を通して農業を身近なものにすることや、理解を深めることが必要とした。言い換えれば、農家と非農家の距離をどのようにして近付けることができるかが重要ということであり、そうであれば発信力の強化も含めて検討すべきとの意見が出された。この取り組みは今後最終的な取りまとめを行い、行政やＪＡへ提言することとしている。

（中央会　農業対策部）

経営の窓口

ＪＡ３線モデル・リスク管理強化に向けた取組みについて（下）

５．２線部署の実効性確保に向けた機能強化のポイント

本県ＪＡにおいては、内部管理体制整備に係る指標、体制整備基準等によって３線部署の体制は量的・質的に一定水準を確保している一方、２線部署については、役割・業務を明確化したうえでリスク管理業務の実施体制の整備・強化の取組みを進めることが必要となる。２線部署の体制整備・強化にあたり、実効性を確保するポイントは次のとおり。

（１）リスク管理委員会等の会議体の設置

リスク管理を積極的に協議・検討する会議体の設置によりリスク低減策の実践を図る。

（２）外部目線・支援の活用

・中央会によるガバナンス支援、経営相談機能の活用。

・リスク管理の実効性向上に向けた中央会等支援機能の活用（体制整備支援、内部統制評価支援、内部監査支援（外部評価含む）など）。

（３）１線部署に対する牽制・差止め

・現業部署に対して、２線部署が牽制機能を発揮できる組織内での位置付け、仕組みづくり。

・リスク管理担当役員の判断による１線部署への差止め。

６．２線部署の体制・機能の強化

リスク管理の中核を担う２線部署が適切に機能発揮するためには、独立性を確保し、専門人材を配置育成することが重要となる。

（１）独立性確保のためのポイント

①　担当役員の明確化

・ＪＡにおけるリスク管理の最高責任者として明確になっており、周知されている。

・常勤役員の人数制約などから、総務担当、コンプライアンス担当の兼務は可。

②　権限・レポートライン（報告経路）の整備

・人事・経費予算執行など含めて１線部署の影響を受けずに独立して業務遂行ができる権限を有している。

・１線部署とは異なるレポートラインであることで、１線部署の影響を受けずに理事会等への報告・協議が可能。

③　業務領域の限定による専門性の確保

・収益獲得もしくはコスト削減を２線部署の責務としない。

・リスク管理にかかる専門知識の提供など１線部署のリスク管理にかかる支援を行うとともに、リスク・モニタリングの実施により業務執行部署への牽制機能を発揮。

（２）専門人材の配置・育成のポイント

①　人材要件

・各事業の業務経験があり、実務に精通した者（実務経験２年以上など）。

・部課長経験者や県連ＯＢの雇用など。

②　人材育成

・全中及び県中が提供するリスク管理にかかる研修メニューの積極受講。

③　キャリア形成

・リスク管理部門を経験した後の転出先としては、１線部署の管理職や内部監査部署。
・ＪＡ経営におけるリスク管理の重要性が高まるなかで、幹部職員のキャリアルートのひとつとして２線部署を位置づけることを期待。

７．リスク管理にかかる２線部署の基本的機能

２線部署に期待する機能としては、①リスクモニタリング、②１線の支援･助言、③１線に対する牽制、④リスク評価と対策検討が挙げられる。

（１）リスクモニタリング
リスクが高い個別の取引を抽出して業務の適切性（推進方法、事務手続など）をモニタリング。

（２）１線の支援・助言
業務執行部門で実施されるリスク管理の抜け・漏れ・不足などの指摘・支援。

（３）１線に対する牽制
理事会、リスク管理委員会などへの報告。

（４）リスクの評価と対応策検討
モニタリングの結果、リスク指標を超えた場合は、理事会、リスク管理委員会などでリスクを回避するための対応策を協議。

８．理事会の機能強化

ここまで、リスク管理においては２線部署の役割が重要であることを説明してきた。しかし、いくら２線部署を強化しても、ＪＡの現状とその変化を的確に捉えた経営判断を行わなければ、適切なコンプライアンス・ガバナンス態勢は構築できない。よって、次の３つの機能については、理事会において十分に時間を割いた議論が行われるべきである。

（１）内部統制システムの整備・運用機能
リスクモニタリング方法を構築したうえで、重要情報が理事会に報告される仕組みを構築・運用。

（２）意思決定機能
モニタリング結果を踏まえた迅速かつ適切な経営判断（早め早めの経営改善、中長期視点での事業モデルの設定、修正、リスク対応）。

（３）進捗管理機能
経営方針および経営戦略の達成度合いを定期的に計測して必要な対応を検討。

９．さいごに

本県ＪＡにおける３線モデル強化にかかる令和６年度の重点取組事項としては、

（１）マネロン・テロ資金対策にかかる３線モデルの体制整備と人材育成、円滑な業務運営と定着。

（２）共済事業のコンプラ点検について、２線部署が独立の立場で点検結果を検証し、必要に応じて１線部署への支援・牽制。

を掲げて周知しているが､本会としてもリスク管理における３線モデル強化に向けて支援していきたい。

（中央会　経営対策部）

ＪＡ十和田おいらせ NEWS

若手職員が自ＪＡ商品をアピール

ＪＡが運営する直売所「かだぁ～れ」で９月１日、「トムベジ収穫祭」を開き若手職員25人がＪＡブランド野菜「TOM-VEGE（トム・ベジ）」を来客者にＰＲした。若手職員によるＰＲイベントは４年目。今回は入組３年目以内の職員が参加し、自ＪＡ商品への理解を深めたほか、接客の心得を学んだ。

この日、店内特設コーナーには、「TOM-VEGE」のピーマンやトマト、「ぼけしらずネギ」、ＪＡのオリジナル加工商品などが棚いっぱいに並んだ。若手職員は試食品の提供やレシピの提案、具沢山の焼きそば販売、野菜すくい、職員考案のクイズコーナーを設置し、多くの来客者でにぎわった。

今春入組した山本つぐみさんは「さまざまな世代の方と触れ合い接客の学びになった。管内産の農畜産物を身近に感じてもらえたらうれしい」と話した。

自慢の野菜をＰＲする若手職員（左）

野菜すくいで野菜を身近に

“わっしょい！”まつりで農産物ＰＲ

ＪＡ青年部と女性部、ＪＡ役職員ら130人は９月８日、十和田市で開かれた「十和田市秋まつり」に参加し、名物の「俵みこし」担ぎや流し踊り、管内産米を使ったポン菓子配布などで、管内の農産物と農業の魅力をＰＲした。

山車の合同運行が行われた三本木大通りでは、青年部員と男性職員が300キロある「俵みこし」を担ぎ、「わっしょい！」の掛け声を上げながら勇ましく運行。息を合わせて一気に持ち上げると、観客からは大きな拍手と歓声が沸いていた。

女性部と女性職員は、たわわに実る稲穂を連想させる揃いの浴衣と花笠姿で登場。「お米ありがとう音頭」に合わせて、一体感のある流し踊りを披露した。

行列では、ＪＡブランド野菜「TOM-VEGE（トム・ベジ）」や県産米「まっしぐら」ののぼりを付けた大型トラクターも出陣したほか、管内産米を使用したポン菓子8000袋を観客に振舞うなどして、まつりを盛り上げた。

一体感のある踊りを披露した女性部員ら

俵みこし担ぎで観客を魅了させた青年部員ら

輝き

農林中央金庫　青森支店
ＪＡリテール企画班
能森（のうもり）　恵佑（けいすけ）　さん

●プロフィール
2023年４月から勤務　静岡県浜松市　23歳

働くきっかけは？
幼少期に地方から海外に引っ越したことで、日本の諸地方に対する愛が芽生えました。地方の根幹産業である第一次産業を支えることで地域の活性化に貢献したいと思い、入庫しました。

業務内容を教えて下さい。
ＪＡの資金動向の集計や財務状況のモニタリングを担当しています。また、地区担当として県南地区のＪＡの信用事業における全般的なサポートを担当しており、経営戦略シート策定や住宅ローン貸出伸長の実践サポート等を行っています。

働いた感想は？
ＪＡが手掛ける事業の幅広さに驚きました。ＪＡを訪問する度に新たな学びがあり、日々勉強を重ねなくてはいけないなと痛感しています。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？
業務に対して食わず嫌いしないこと、アンテナを高く張り情報を収集することを心がけています。分からないことは素直に他の方の助けを求めるようにしています。

特技・趣味は？
行ったことがない土地に行くことが大好きで、暇さえあれば県内外問わずいろいろな街を訪問しています。青森に来てからの１年半で青森県内の市町村は40市町村中39市町村を訪問しました。残るは東通村です。また、チェロを弾けます（下手の横好きですが・・・）。

あなたが自慢できることは？
全国の市町村を覚えているのと、大学でアジア研究を専攻していた関係で中国語とアラビア語を少しだけ話せます。

将来の夢は？
青森にいる間に津軽弁・南部弁を習得してみたいです。長期的な夢としては、外国語を活かして日本の農産物をアジアに輸出する支援に携わってみたいです。

ＪＡ人の動き

○ＪＡ津軽みらい（令和６年９月20日付）

代表理事組合長	奈　良　　寧（新）	代表理事常務（信用担当専任）	津　川　博　征（新）
代表理事専務（総務管理担当）	村　上　勝　憲（新）	代表監事	大　川　喜　慎（新）
代表理事常務（販売担当）	山　口　貴　佳（新）	常勤監事（員外監事）	一　戸　　誠（再）
代表理事常務（営農購買担当）	小山内　忠　道（再）		

部会のチカラ

相談環境整え支援

新規就農者に栽培管理について説明する松嶋副部会長㊨

ＪＡつがる弘前ピーマン部会は、会員数153人で、2024年度は新規会員として22人が加わった。18年度にＪＡが選果や袋詰め作業を請け負う共同選果を導入してから会員数は年々増加し、販売額も上昇している。23年度には、初めて販売額２億円を突破し、ＪＡの園芸作物のトップとなった。

部会はＪＡと一体となり、定植前の４月から収穫が本格化する８月まで、管内各地区６ヵ所のほ場で生育状況に合わせたセミナーを毎月開いている。新規作付け者が気兼ねなく質問や相談ができるように、新規作付け者を対象としたセミナーも開き、先輩の部会員が定植の仕方やネットの張り方などを実演しながらアドバイスしている。

栽培技術向上のための現地巡視会や視察研修、勉強会なども積極的に開き、部会員同士の交流の場となっている。

副部会長を務める松嶋健二さん（64）は「各地区に先輩部会員がいるので、いつでも相談できる環境も整っている。『もいだら箱さへで、もっていくだけ』を合言葉に、ＪＡと協力して仲間を増やしていきたい」と力強く話す。

新風

ＪＡごしょつがる

規模拡大目指す 就農２年目

五所川原市の奈良岡凛さん（27）は、就農２年目の若手農家。水稲８㌶と、水稲育苗用ハウス２棟を利用したキュウリの栽培をしている。

絵を描くことが好きで、県外で３次元コンピューターグラフィックス（３ＤＣＧ）を学ぶスクールに通っていたが、水稲を営む祖父が体調を崩し、田んぼを手放そうか悩んでいることを聞き、もったいないという思いと好奇心から就農を決意。祖父からの指導を受けて農業をスタートさせた。

キュウリを収穫する奈良岡さん

「１年目はキュウリの成長に追われ、よくわからないまま終わってしまった」と話す奈良岡さん。振り返ってみると「自分でなんとかしなくては」という気持ちが強かったという。

２年目となる今年は、人に頼ることを学んだ。アルバイトを雇いスムーズに作業を進めることができ「規模拡大」という今後の展望が見えてきた。

今では田植え機にコンバイン、トラクターまで乗りこなす。農業の合間には、イラストの仕事も引き受けながら両立を図る。失敗しながらも毎日学ぶことが多く、農家同士の助け合いや、高齢農家が自分と同じように農作業する姿に何度も励まされて奮起する。どんな時も前向きな奈良岡さんの挑戦はまだ始まったばかりだ。

催事カレンダー

開催日時	ＪＡ名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
10月16日（水） 11：00～12：00	ＪＡ青森中央会	国消国産の日イベント「みんなで知ろう！国消国産！2024！」	県農協会館 正面玄関	組織農政課	017-729-8760	

後編記集

朝夜が肌寒い今日この頃、秋を感じる季節かと。

今回の写真は「実物大のガンダム」です。お台場のダイバーシティ東京プラザの立像ですが、大きいのが初代で2013年撮影、小さいのが現在の２代目で2018年撮影したものです。残念なのが2024年３月に終わってしまった横浜の動くガンダムを見逃したことです。

皆さんはいかがでしょうか。

それでは皆さん、「SEE YOU ON NOVEMBER!」（一）

ホームページアドレス

■ＪＡ青森中央会　https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/
イベントの様子、歳時記、産直・ＪＡ情報などをご覧いただけます。

■ＪＡバンク青森　https://aomori.jabank.org/
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のＪＡバンクへのリンク等をご覧いただけます。

■ＪＡ全農あおもり　https://www.zennoh.or.jp/am/
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。

■ＪＡ共済連青森　https://www.jakyosai-aomori.jp
ＪＡ共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。